

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は緩やかに上値を追う展開か

[12月27日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月20日～12月24日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	113.65	114.51(24)	113.33(20)	114.41	+0.78
ユーロ・ドル	1.1245	1.1342(22)	1.1235(20)	1.1328	+0.0088

=====

国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,782.59	+236.91	日本10年債利回り	0.067 +0.018	
ダウ平均株価	35,950.56	+585.12	米10年債利回り	1.493 +0.091	

=====

<来週の主要経済統計等>

- 27日 日本11月小売業販売額
- 28日 日本11月有効求人倍率、日本11月雇用統計
日本11月鉱工業生産指数
米10月S & Pケースシラー住宅価格指数、米10月住宅価格指数
- 30日 国内証券・商品取引所大納会
スイス12月KOF先行指数
米新規失業保険申請件数
米12月シカゴ購買部協会景気指数
- 31日 中国12月製造業購買担当景気指数

【前回のレビュー】各国で続くデルタ株やオミクロン株の感染拡大の影響は警戒されるものの、FRBは6月にも利上げを開始するとみられており、ドルは底堅い推移を継続しそうだ。こうした中、ドル円は113～114円台でもみ合いながら、緩やかに上値を追う展開が見込まれるとした。

【オミクロン株への警戒感が後退】

新型コロナウイルスの新たな変異種であるオミクロン株への警戒感がやや後退している。オミクロン株の感染力は強いものの、デルタ株などに比べて重症化しにくいとの調査結果がいくつか報道されている。また、米食品医薬品局（FDA）が22日にメフィザー製の経口治療薬「パクスロビド」に緊急使用許可を出した。FDAは23日にメルクの「モルヌピラビル」にも重症化するリスクの高い成人に対して使用許可を出している。こうしたことが、過度な警戒感の後退につながっている。

14～15日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、量的緩和の縮小（テーパリング）を加速させることを決定しており、テーパリングの終了時期は2022年3月に前倒しされる見通しとなっている。FOMCメンバーによる政策金利見通し（ドットチャート）では、2022年中の利上げ回数3回が中央値となるなど、テーパリング終了後に6月にも利上げに動くとの見方が広がった。

米連邦準備制度理事会（FRB）のウォラー理事は17日に、来年3月のFOMCで利上げ開始決定がありうると発言している。利上げ前倒し観測はドルの底固さにつながっている。ただ、金融市場ではFRBによる来年の利上げについては織り込みが進んでいるとみられる。

このところは新型コロナウイルスのオミクロン株への警戒感が後退しており、米国株が上昇に転じている。NYダウは3万5000ドル割れから戻り歩調に転じており、主

要国の株価も追隨して堅調に推移している。そうした中、為替市場では、リスク選好の動きからドル売り円売りの動きに傾いている。

ドル円は17日に113円台前半まで下落した後は緩やかに上昇しており、114円台を回復している。円売りの動きもあって、ユーロ円、ポンド円、豪ドル円などのクロス円は上昇基調で推移している。ドル売りの動きもあって、ユーロドル、ポンドドル、豪ドル/ドルなども堅調な動きを見せている。

各国の株高でリスク選好の動きが広がっている中、ドル売り円売りの動きとなっている。ただ、ドルインデックスは95～96台で推移しており、大きな崩れはない。来年3回の利上げがあるとの見通しから、ドルは底堅い動きが見込まれる。こうした中、ドル円は114円台を固めて緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、113.25～115.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、27日に日本11月小売業販売額、28日に日本11月有効求人倍率、日本11月雇用統計、日本11月鉱工業生産指数、米10月S&Pケースラー住宅価格指数、米10月住宅価格指数、30日に国内証券・商品取引所大納会、米新規失業保険申請件数、米12月シカゴ購買部協会景気指数などがある。

【ユーロドルは方向感の出にくい展開か】

オミクロン株への警戒感の後退による米株高などを受けて、ドル売り円売りの流れとなっており、ポンドドル、豪ドル/ドルなどは堅調な動きを見せている。これらに比べると、ユーロドルは相対的に上値の重さ感じさせる動きとなっている。こうした中、ユーロドルは1.12～1.13ドル台でのレンジ相場を続けている。1.12ドル接近では下値を支えられやすくなっている。

ロシアがウクライナとの国境周辺に軍隊を集結させていると報じられており、地政学的リスクの高まりが、ユーロの上値を抑える可能性もありそうだ。

クリスマス休暇のあとは年末年始となり、市場が盛り上がりを欠く時期となっている。経済指標やイベントなども少なく、市場を動かす要因も乏しくなることから、ユーロドルはレンジ相場で方向感の出にくい展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1200～1.1400ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日にスイス12月KOF先行指数、31日に中国12月製造業購買担当景気指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。